

皆様にまずお伺いを致します。「今日一日のうちに内佛にお参りをされましたか。この一ヶ月のうちに手次のお寺に参られましたか。この一年のうちにご本山へ参られましたか。」皆様の答えはどうでしょう。「はい、内佛にはちゃんと参りました。手次の寺にはちょっとご無沙汰してますかな。ご本山は・・・」という方が多いのではないのでしょうか。なかには「京都へはちょいちょい行つとるんだが、ご本山は前を通り過ぎるだけだなあ」という返事も聞こえてきそうです。そもそもこのお尋ねのもとになっているのは、『^{れんによしょうにんごいちだいきききがき}蓮如上人御一代記聞書』のなかに、こういう一文があるのです。読んでみます。「赤尾の道宗、もうされそうろう。『一日のたしなみには、あさつとめにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、^{ごかいさんさま}御開山様の^{ござ}御座候ところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、^{ごほんじ}御本寺へまいるべしと、たしなむべし』と云々」。ここから真宗門徒の生活はこうでありたいものだという型が生まれ、受け継がれてきたのです。赤尾とはここ岐阜市から国道156号線を北上し、越中富山に入った五箇山にある地名で、道宗とは、蓮如上人に熱烈に帰依し、その侍者をつとめたとされる伝説的な^{とくしんしや}篤信者です。現在道宗を開基とする行徳寺がその地にあります。本堂に上がると内陣^{ないじん}右手奥に真っ黒な道宗の木像が安置されており、なんとその姿は48本の割り木を並べてその上に寝ているもので、^{あみだ}阿弥陀の48の^{せいがん}誓願を常に忘れないようにしておくためであった、との厳しさに驚かされます。一度お訪ねになられたらどうでしょう。